

トレーニングレポートから学ぶ ～S-1による流涙への対応～

【症例・対応紹介】

- 75歳、女性、胃癌（SOX+トラスツズマブ）
- 2コース目を2/14から開始→化学療法室にて副作用確認時は流涙の訴えなし
- 2/16に保険薬局より涙目の訴えについて情報提供あり、S-1の副作用疑う
 - 病院で聴取できなかった副作用情報提供
- 保険薬局にて市販の目薬にて対応するよう指導あり
 - × S-1副作用ならソフトサンティアを提案
 - × 眼科受診をどうするか主治医に確認依頼
 - × S-1の休薬、中止を提案
- 病院薬剤部は医師に対してカルテへの付箋記載にて情報提供
 - × 上記対応を主治医に電話にて確認の必要
- 3/16受診時に患者より症状継続の訴えあり
- 症状はやや増悪、軽度結膜炎症状あり
- 目薬は市販の疲れ目用のものを購入して点眼していたとのこと
- 3コース目はS-1中止としヒアレインミニ処方、近医眼科への紹介状作成し早期受診を患者に示唆

【S-1の副作用「流涙」】

- 半数の症例が投与開始から3ヶ月以内に発現
- 軽度の症例ではS-1投与中止にて軽快
- 角膜障害による涙液分泌亢進、涙道障害による涙液排出低下が原因
- 涙道狭窄のみられる重度の症例では眼科的処置が必要
- 流涙が持続する場合や流涙の程度が強い場合、涙道の狭窄や閉塞が発生している可能性を考慮し、眼科医に相談し適切な処置をとる必要がある

【症状出現時の処置】

- S-1の休薬、中止を検討、眼科医へ紹介
- 角膜障害に対して防腐剤を含まない人工涙液によりWash outを行う/ヒアレインミニ、ソフトサンティア（市販）
- 涙道障害については通水試験を行い、涙道の狭窄や閉塞の程度を調べる
 - （軽度）防腐剤を含まない人工涙液により
Wash out
 - （進行例）涙道チューブ留置術、涙小管形成術、涙嚢鼻腔吻合術など